

議会報告会開催概要（釧路地区）

開催日時	平成24年7月2日（月）14：00～15：30
開催場所	鉄北みどり会館
参加人数	8人
出席議員	月田光明副議長（石炭対策） 大島 毅議員（座長・議会運営・経済建設） 三木 均議員（総務文教） 金安潤子議員（民生福祉）
質疑応答の内容	<p>問：特別養護老人ホームが690床となっているが、これにより待機の人がどのくらい満たされることになるのか。</p> <p>答：平成24年2月で要介護4・5の待機者が137名おり、現在はもっと増えていると思う。690床になることで40名が入所可能になる。</p> <p>問：フィットネスセンターの跡利用について、にぎわいを作っていくことを考えているとあるが、どんな内容なのか。</p> <p>答：指定管理者に年間7,000万円支払っており、負担が重いということで廃止となった。維持管理費がかからないように立地条件・ロケーション・空間を考え有効利用していくことなど、市民の各界の人に集まってもらい、意見を聞こうと市民委員会を設置し、今後検討されることになっている。</p> <p>問：フィットネスセンターの跡利用について、廃止が決定してから今後どうするのかという議論では遅い。具体的な案は示されなかったのか。民間では、廃止と同時進行で進めていかなければならない。</p> <p>答：存続、廃止に関していろいろな議論があった中で、跡利用を考えた上で廃止にしないのかという議論もあった。</p>

問：M O Oの近くに住んでいる人にとって、避難場所となることについて考え方を聞いたのか。津波に向かって逃げるということにはならないのではないか。

答：M O Oの従業員や観光客などが上の階に上がることを想定している。また、先日、道から新たな津波についての想定が発表されたばかりである。相当高い津波が来るという想定であり、津波到達時間も考慮し、市はこれから防災計画を見直さなければならない。今後、河畔や河口地域の避難についても議論していきたい。

問：石炭対策特別委員会は、他の地方自治体にはあるのか。

答：釧路だけである。石炭に関するエネルギーについての議論を行っている。日本の坑内掘りの炭鉱は、釧路コールマインだけである。日本のエネルギー源としての石炭は99%輸入しており、海外から安定して輸入するために、コールマインがもつ採掘・保安・その他の技術をベトナムや中国などに教えているのが現状である。その石炭に関することをこの委員会で議論していることが大事であり、やめたら釧路も見切りをつけたと、間違ったメッセージを送ることになってしまう。

問：原発の是非について市議会としての意見はどうか。

答：今まで、市議会として原発をやめるなどの決議をしたことはない。原発そのものについて賛成か反対かを市議会としての意思表示をしたことがないということであり、議論していないわけではない。2月・6月議会でも17都県の学校給食の食材については市も独自で放射能物質の検査をしていること、震災瓦れきの受け入れについては、放射能汚染されていないもので

	<p>あればいいのではという議論、特に一次産業への風評被害における懸念がぬぐえないため、震災瓦れきは受け入れるべきではないといった議論があった。</p> <p>問：消費税増税について、賛成ということなのか。</p> <p>答：市民から市議会として増税に反対だということを国に要望してほしいという陳情書が市議会に提出され、賛成や反対、態度を保留する会派もあったが、最終的には、多数決でこの陳情は不採択となった。</p> <p>問：昨日の佐藤議員の遅刻の理由を聞きたい。</p> <p>答：佐藤議員は会議時間の失念で出かけていたことを会場で陳謝した。その日の報告会が終わった後に注意をしたところであり、本人は深く反省している。今後このようなことがないように厳しく戒めたい。</p>
<p>議会への要望</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 インセンティブ、マルチメディアデイジーなど片仮名表記が多く、意味がわかりづらい。 2 出席議員の紹介をしてほしい。 3 昨日の佐藤議員の遅刻したことに関して、議長、副議長からおわびの言葉をあとがきで載せたほうがよい。 4 石炭対策特別委員会をエネルギー対策特別委員会にしてはどうか。
<p>市への要望</p>	<p>—</p>